

知識共創アブストラクトタイトル

Title for Forum for Knowledge Co-Creation

知識太郎¹⁾, 共創花子²⁾, 石川能美子¹⁾
CHISHIKI Taro¹⁾, KYOSO Hanako²⁾, ISHIKAWA Nomiko¹⁾³⁾
taro@aaa.ac.jp, hanako@bbb.ac.jp, nomiko@ccc.ac.jp

- 1) 北陸先端科学技術大学院大学, 2) 知識共創研究所, 3) 知識科学センター
1) Japan Advanced Institute of Science and Technology,
2) Institute of Knowledge Co-Creation, 3) Center of Knowledge Science

【キーワード】 知識創造, 知識共有, 知識活用 (最大4つまで)

1. 背景・目的

知識は、人間の生命・安全保障や豊かで幸せな生活、企業等の様々な組織やコミュニティ・都市・国家の経営、そして地域レベルから地球規模までの多様なスケールでの持続可能な社会の構築に至るまで、あらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第9回知識共創フォーラムを開催します。

2. 研究内容

知識は、人間の生命・安全保障や豊かで幸せな生活、企業等の様々な組織やコミュニティ・都市・国家の経営、そして地域レベルから地球規模までの多様なスケールでの持続可能な社会の構築に至るまで、あらゆる社会的活動の中核を担う要素です。旺盛な知的好奇心をもって、個人や組織における知識の創造・共有・活用に潜む知的神秘を解明し、より高度に成熟した知識社会を実現していくための指針を提案していくことは、知識科学の大きな学術的使命です。この実現のためには、

1. 幅広い視野に基づいた社会や生活における知識の深い洞察と問題提起
2. 知識の創造・共有・活用に関わる前例にとらわれない独創的な仮説やモデルの構築
3. 知識を適切に抽出・評価できる方法論による仮説検証とモデルの洗練

を継続的に行っていくことが必要であり、同時に、研究者や実務家との分野を超えた密度の濃い議論が不可欠です。このような意識のもと、研究報告者と参加者が知識を共に創造していくことを通じ、広く知識科学研究の基盤を形成していくことを目的として、第9回知識共創フォーラムを開催します。

3. フォーマット

アブストラクトは、日本語で1000字程度、英語で400語程度(参考文献リストは字・語のカウントに含まない)、かつA4一段組で2ページ以内とします。

余白の詳細は表1に示す通りです。ページ番号を含め、ヘッダー、フッターは入れないでください。

本文のフォントは、図も含めてできるかぎりMS明朝、MSゴシック、Times New Romanに限定して使用し、章節タイトルはMSゴシックとArialをお使いください。フォントサイズは原則表2に示すとおりにお使いください。また、段落開始の字下げは1文字、本文行間は1行、段落前後の間隔は0行にしてください。章節タイトル前、図表の前後は1行空けてください。

句読点は、全角の(、.)で統一し、(、。)を使用しないでください。

表 1：用紙設定

用紙サイズ	A4 (210mm×297mm)
上下余白	上: 35 mm, 下: 20 mm
左右余白	左: 20 mm, 右: 20 mm
段組設定	1 段組

表 2：フォント

	日本語表記	英語表記
表題	MS ゴシック 14pt (Bold)	Arial 12pt (Bold)
著者名	MS ゴシック 10.5pt	Times New Roman 10.5pt
著者上付記号	Times New Roman 8pt	Times New Roman 8pt
所属	MS ゴシック 10.5pt	Times New Roman 10.5pt
本文	MS 明朝 10.5pt	Times New Roman 10.5pt
章節タイトル	MS ゴシック 11pt	Arial 11pt
注・参考文献・連絡先	MS 明朝 9pt	Times New Roman 9pt

参考文献リストは最後に、和文・英文合わせてアルファベット順に記載してください。字下げ 0 文字、ぶら下げ 1 文字です。書き方、挿入の仕方については、例を挙げますので参考にし、各自で書き方を判断してください。引用文献を本文中で提示する際は、名前と発行年を次の例にならって入れてください (Polanyi, 1966)。

代表者の連絡先をレポートの最後の連絡先の欄に書いてください。連絡先には、住所、名前、E-mail アドレスを掲載してください。

参考文献

- 知識太郎 (2007) 「知識共創研究報告集にレポートを書くために」 『知識共創』 3(1), pp. 101-105.
- Galbraith, J. R. (1972) Organization design; An information processing view, in Lorsch, J. W., and P. R. Lawrence, eds., *Organization Planning: Cases and Concepts*, Richard D. Irwin.
- 長谷川恵一 (2000) 「管理会計情報変革のフレームワークとしてのバランスト・スコアカード」 谷武幸・岩淵吉秀編著 『競争優位の管理会計』 中央経済社.
- 石井淳蔵・奥村昭博・加護野忠男・野中郁次郎 (1985) 『経営戦略論』 有斐閣.
- Nonaka, I. (1994) A dynamic theory of organizational knowledge creation. *Organization Science*, 5(1), pp. 14-37.
- Nonaka I. & Takeuchi H. (1995) *The Knowledge-Creating Company: How Japanese Companies Create the Dynamics of Innovation*. Oxford University Press. (梅本勝博訳 (1996) 『知識創造企業』 東洋経済新報社.)
- 野中郁次郎・竹内弘高 (1996) 『知識創造企業』 梅本勝博訳 東洋経済新報社.
- Polanyi, M. (1966) *The Tacit Dimension*. Routledge & Kegan Paul.
- 知識科学研究所調査報告書 5 (<http://www.xxxx./yyy/zz.pdf>) [Accessed 2011, May, 4]

連絡先

住所：〒xxx-xxxx 石川県〇〇市〇〇町 1-3 ××大学
 名前：知識太郎
 E-mail：xxxx@xxx.ac.jp